

派遣先所属 宮城県教育庁施設整備課 氏名 高杉 佳延 (たかすぎ よしのぶ)

派遣期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の宮城県教育庁施設整備課では、主に県立学校の財産管理や施設整備、市町村立学校の国庫補助事業に関する業務を行っています。

私の担当業務は、東日本大震災の地震や津波などの災害により被害を受けた公立教育施設を復旧するための災害復旧事業に関するものです。

配属先の施設整備課では公立学校施設を、兼務先のスポーツ健康課及び生涯学習課では、公立社会教育（体育）施設を復旧する業務を行っています。また、県立学校グラウンドの除染業務も行っています。

具体的には、公立学校施設災害復旧費国庫負担（補助）制度に基づく災害復旧事業で、文部科学省の実施する現地調査（災害査定）の受検や随行、それに必要な国庫負担金（補助金）の書類作成や内容確認を行っています。

これは、県や市町村の教育施設を復旧するために、国からの財政的支援を受けるためのもので、現在でも被災により閉鎖若しくは一部使用ができなくなったままの公立学校施設等について、月に数回の災害査定が行われています。

この業務についても震災からの復旧・復興にあたり、宮城県の財政負担を減らし、施設の早期復旧を図るためにとても重要なものとなっています。

<画像は津波で被災した学校施設の現況です。>



そして、東日本大震災から 2 年半が過ぎ、教育庁においては、昨年度まで 4～5 人いた他県からの派遣職員が、本年度は本県から一人のみとなっていることから、震災により被害を受けた公立学校施設等の復旧事業はほぼ完了ないし着工できたものと考えられます。

しかし、津波の被害が甚大であった、気仙沼、南三陸町、石巻、女川、東松島をはじめとする沿

岸の街は、がれきの処理こそ終了してきましたが、未だ復興にはほど遠い状況です。移転復旧が必要な学校は、現在もなお仮設校舎で授業を受けている等の状況であり、不便をしいられている生徒や地域の皆様のためにも復旧が急がれています。

< 画像は宮城県気仙沼向洋高等学校の仮設校舎の状況です。 >



担当業務では、各学校の職員や市町村の職員と接する機会が多く、業務で直接被災者の方々に直接相対する機会はほとんどありません。そのため、どこまで復旧・復興に寄与しているのか目に見えてこないことがあります。被災により閉鎖されていた学校や公民館、体育館等の災害復旧工事が着々と完了し、使用を再開していることに復旧を実感しています。復興に向け、最終的な受益者である宮城県民の皆様の生活基盤の回復のため引き続き努力したいと思います。

一方、私の所属する職場でも大震災発生からほとんど休日もなく業務にあたっていたようですが、現在は平時に戻りつつあるも、心身共に疲労が蓄積してきていることは否めない感があります。しかし、観光地「仙台宮城」特有のおもてなしの心意気により、人柄が良く、親切で、職場は明るい雰囲気があります。

宮城県では、被災者である職員や復旧業務に携わる職員に対し、職員のメンタルヘルス対策が積極的に実施されており、職場での心の健康管理についての体制の重要性を感じました。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

業務で各施設の現地調査のため県内各地を公用車で移動していますが、先日、出張の際に気仙沼、南三陸、石巻の沿岸市町を通りました。

市街地に打ち上げられた大型漁船「18 共徳丸」の解体作業が始まり、さんさん商店街（仮設商店街）には人が集まり、石巻港には大型客船が続々と寄港するなど、少しずつ復興に向けて歩みを始められています。

<画像は気仙沼市、南三陸町の様子です。>



しかし、報道で見ていた地震直後の状況から、がれきこそ撤去されましたが、防潮堤工事の内側では、市街地の跡形もなく建物の一部基礎と水たまり、雑草生えた空き地が広がっているのみであり、宮城県では未だ 93,260 名の方々が応急仮設住宅で大変厳しい生活を余儀なくされている状態です。

沿岸地域の住宅や市街地の再生はまだまだ相当の時間を要するという感じがしましたが、市内には人が暮らし、仮設店舗が点在し、少しずつ生活を取り戻している感じも受けました。

3 おわりに

東日本大震災により甚大な被害（死者行方不明者 11,752 名、住宅全半壊 237,991 棟）を受けた宮城県ですが、『宮城県震災復興計画』に基づき、復興に向けた取り組みを一層加速させています。

この計画では、5つの基本理念と、10の復興のポイントを示し、本年度までの3年間を復旧期。来年度からの再生期4年間を経て、平成32年度までの3年間を発展期とし、10年間における復興の道筋を示しています

引き続き、地域や住民が主体となった復興が迅速に達成できるよう全力で取り組んでまいります。東日本大震災を経験し、あのとき感じたこと、考えさせられたこと、そして、「あのときの気持ち」を忘れずに、被災地が復興するまで精一杯、応援していきます。

(宮城県公式ホームページ — 震災・復興)

<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/>

